

元 氣 の 源 通 信

充実した人生を送るために心・技・体を磨き続ける
みんなが笑顔で幸せに暮らせる社会をつくろう

特定社労士・人事コンサルタント 深川順次
福岡市博多区比恵町 11-7-701
深川経営労務事務所・(株)グッジョブ
TEL092-409-9257 FAX092-409-9258

(今月の言葉) 新たな社会を展望する

- ①一握りの富豪が富を独占する社会
- ②ゆたかな社会を展望する
- ③脱成長のコモン社会が世界を救う

2022年2月号(第215号)

「逆境の資本主義」(日経新聞)、「岐路の資本主義」(読売新聞)

資本主義はふたたび三たび逆境に立たされています。コロナ禍の中、格差はさらに拡大しています。一握りの超富裕層と明日の食事もままならない膨大な貧困層が現出しています。

同時に資本主義は地球環境を壊し続けてきました。その結果、集中豪雨、巨大台風、大干ばつにより被害が飛躍的に増大し、小さな島や水辺の街は水没の危機にさらされています。

SDGs(持続可能な開発目標)。今いたるところでこのSDGsが声高に叫ばれています。17の目標が掲げられ、その1番目が「貧困をなくそう」です。はたして資本主義は「貧困」を解決できるのか、新たな社会を実現することなくして解決できないのか、考えていきたいと思います。

新たな社会を展望する

■ 一握りの富豪が富を独占する社会 ■

「世界の富豪26人が保有する資産の合計は1兆4,000億ドル(約153兆円)、貧困層38億人の保有する資産と同額」(2020年国際非政府組織(NGO)オックスファム報告書)

報告書の中で、格差拡大に歯止めをかけるには富裕層への課税強化が必須と呼びかけています。更に世界の上位1%の富豪へのたった0.5%の課税で学校に行けない2億6200万人の子どもの教育に加え、医療サービス提供で330万人の命を救うことができると強調しています。しかし現実には、国と国との間、同じ国の中でも「持てる者」と「持たざる者」の格差が、ますます拡大しているのです。

【グローバル経済が圧倒的格差を生んだ】

1人当たりの国民総所得額を全世界で比較すると、高い国々はヨーロッパ・北米、低い国々はアフリカ・アジア・中南米です。例えば、トップはスイスの85,718(米ドル)、最下位はアフリカのブルンジ256(米ドル)で実に335倍の開きがあります。

ヨーロッパ列強は、16世紀から20世紀にかけてアフリカ・アジア・中南米を植民地化し富を奪いつくしてきました。その上に繁栄を築いてきたのです。アメリカも先住民から土地を奪い、黒人奴隷労働によって資本主義の土台を作り上げてきました。

現在もアメリカ主導の多国籍企業や国際金融資本が全世界から富をかき集めています。彼らには歴史的に大きな負債があります。それゆえ世界に対して富を還元すべきなのです。

【ホームレス大国アメリカ】

「これが資本主義大国、アメリカカーニューヨークに赴任した当初、ホームレスの多さに衝撃を受けたことを記憶している。…街を歩いていると必ずと言っていいほど路上生活する人の姿を見かける」(2021.1.25総務省派遣員レポート) ニューヨークに次いで多いのがロスアンゼルスです。

「ロスアンゼルスで私が通勤で使うバスや電車では、大きな荷物を抱えたホームレスが乗っているのを見ない日はない。中心部のスキッドロウと呼ばれる地域に行くと、高層ビルの下に少なくとも3000人はいると言われるホームレスの居住地域が形成されている」(2020.1.28NHK特派員レポート)

アメリカ政府の2020年1月統計発表によるとホームレス数は、56万7715人。コロナ禍で更に増えていることが推察されます。最も富裕層の多いアメリカは、ホームレス大国でもあり、更に分断が進んでいます。

■ゆたかな社会を展望する■

「資本主義と戦った男」(佐々木実)として取り上げられている宇沢弘文は、『社会的共通資本』の中で「ゆたかな社会」を次のように述べています。長くなりますが引用すると

ゆたかな社会とは、すべての人々が、その先天的、後天的な能力を十分に生かし、それぞれのもっている夢とアスピレーション(志)が最大限に実現できるよう仕事にたずさわり、その私的、社会的貢献に相応しい所得を得て、幸福で、安定的な家庭を営み、できるだけ多様な社会的接触をもち、文化的水準の高い一生をおくることができるような社会である。

「ゆたかな社会」を実現するための前提条件として、「社会的共通資本」を説いています。すなわち、「社会的共通資本」(自然環境、社会的インフラ、制度資本)は、決して国家の統治機構の一部として官僚的に管理されたり、利潤追求の対象として市場的な条件に左右されてはならず、社会全体の共通財産として管理・運営されなければならないと強調しています。

自然環境は、大気、水、森林、湖沼、海洋、沿岸湿地帯、土壌など
社会的インフラは、道路、交通機関、上下水道、電力・ガスなど
制度資本は、教育、医療、金融、司法、行政など
これを総称して宇沢弘文は「社会的共通資本」と呼んでいる。

とくに冷戦崩壊後、フリードマンらが唱える新自由主義(いわゆる市場原理主義)がアメリカを始め多くの資本主義国を席卷しました。「この世界のすべては市場を通して取引(商品化)できる」「市場価格こそ正義」「現行の社会保障制度などいらない」「規制はことごとく撤廃しろ」「民営化こそ正義」

これを積極的に取り入れたのが、レーガン大統領、サッチャー首相、中曽根首相そして小泉首相たちでした。日本でこの新自由主義の旗振り役になったのが竹中平蔵です。その結果、巨大な格差社会を生み出したのです。

この新自由主義に対抗して出されたのが、「社会的共通資本」の考え方です。

■脱成長のコモン社会が世界を救う■

資本主義の行き詰まりが誰の目にも明らかになってきています。とくにアメリカでは若者の半数以上が、資本主義よりも社会主義が好ましいと考えています。日本でも斎藤幸平の『人新世の「資本論」』が30万部を超える大ベストセラーとなっています。

ここでは、彼の考えの一端を紹介します。

【人新世の時代】

人新世とは、人類の経済活動によってつくられた人工物が地球を覆いつくし、環境に激変を起している時代と言えます。海はプラスチックのゴミだらけ、大気には二酸化炭素が増え続け、更にはプルトニウムやセシウムが飛んでいる地域もあります。気候変動の影響で、スーパー台風、大洪水、大規模な山火事、大干ばつなどの異常気象が発生しています。このまま放置すると、生物の多様性は失われ、多くの場所が人間の住める地球環境ではなくなってしまう、そういう時代に突入しているのです。

【目指すべきはコモンという第三の道】

彼は、著しい格差社会や環境破壊は、飽くなき利潤追求、飽くなき成長を求める資本主義によってもたらされたもの、SDGsが掲げられているが、目下の危機から目をそらすアリバイ作りに他ならないと断じています。

解決の道は、コモンという第三の道です。アメリカ型の新自由主義(市場原理主義)のように、あらゆるものを商品化するのではなく、またソ連型社会主義のようにあらゆるものの国有化を目指すのでもない、水や電力、住居、医療、教育といったものを公共財として、市民が自分たちで民主主義的に管理する社会を目指すとしています。彼はそうした社会を「コモン」と表現しているのです。

宇沢弘文の「社会的共通資本」と共通するところがありますが、宇沢が言うところの専門家に任せるのではなく、市民が民主的に共同管理することの重要性を強調しています。

参考文献:『14歳から考える資本主義』(インフォビジュアル研究所)『社会的共通資本』(宇沢弘文)
『人新世の「資本論」』(斎藤幸平)